

## 「ニイタカヤマノボレー二〇八」を知っていますか!?

1941年12月2日、大本営より機動部隊に対して「ニイタカヤマノボレー二〇八」(ニイタカヤマ(新高山)は当時日本領であった台湾の山の名で当時の日本の最高峰3952祀、一〇八とは12月8日のこと)の暗号電文(「日本時間12月8日午前0時を期して戦闘行動を開始せよ」という意味を持っていた)が発信され、同年12月8日に日本帝国海軍によって真珠湾攻撃が行われました。つまり、12月8日は太平洋戦争が始まった日です。

太平洋戦争を考える場合、当時の日本には戦争を始める事情があったとする歴史解釈をする人もいますが、「人間の命は地球よりも重い」という言葉もあるぐらい命は尊いものであり、1945年8月の終戦までの間に日本人の戦闘員・一般市民を合わせて200万人以上の人々の命が失われた現実から「戦争」は間違っていたとしか言えません。

従って12月8日は過去の悲劇を学ぶ上で忘れてならない日と言えます。

## 混迷をきわめた国会のウラで武器輸出三原則の見直しが進む?

今年で、終戦から65年の歳月が経ち、現在では戦争を体験した人も少なくなってきたおり、私たちが始め戦争の本当の怖さ、恐ろしさ、悲惨さを知らない世代が多くなっているのが現状です。また、日本は島国と言うことで陸地の国境が無いいため、国と国との紛争への危機感が少なく「平和ぼけ」しているとかとも言われています。

そのためか現政権の北沢俊美防衛相は、10月に日本が平和国家であるための象徴となっている『非核三原則』『武器輸出三原則』の『武器輸出三原則』について、原則すべての武器の輸出を禁じる武器輸出三原則について「新・武器輸出三原則を作り出したらどうか」と述べ、見直しを検討する考えを表明しました。

これは、以前に紹介しました民間有識者による「新たな時代の安全保障と防衛力に関する懇談会」の報告書で武器輸出三原則の見直しを求めていることに準じた発言だと思えます。そして今月4日には、政府が年内に策定する「防衛計画の大綱」(防衛大綱)に、武器輸出三原則の見直しを盛り込む方向で最終調整に入ったと報道されています。

それによると「新・武器輸出三原則」は、①武器の国際共同開発の対象国拡大や、国連平和維持活動(PKO)などの国際協力活動で装備品を相手国に供与することを認める。②武器の共同開発は、世界的な潮流になっており、三原則の例外で認められている米国以外に欧州などとも連携する必要がある。などが言われていますが、一度歯止めを外すとどうなるかわかりません。まさか朝鮮戦争時代の「朝鮮特需」を狙っているわけではないでしょうが、「新・武器輸出三原則」といっても、結局のところは経済活動を優先に都合良く解釈・運用されていくことは目に見えていると言っても間違いのないと思います。

現在、尖閣諸島沖での中国漁船衝突事件の対応、北方領土問題、北朝鮮による延坪島(ヨンピョンド)砲撃事件、等々によって、日本を取り巻く情勢が厳しくなっています。

厳しくなってきた今こそ私たちは、平和国家日本の象徴である『非核三原則』『武器輸出三原則』をしっかり掲げて「平和」を訴えていかなければなりません。

私たちは、現在の生活を守っていくため、次世代を担う子供たちのため、平和な日本を創造していかなければなりません。

そのために一人一人が過去の悲劇をしっかり学び、平和への強い願いをもって行動していきましょう!!